

## 16. 肥育牛への飼料用米給与の取り組み

北部振興局 生産流通部 畜産班

○酒井奏 植木佳孝

### 1 背景・目的

北部管内における飼料用米の肥育牛への利用は、給与することにより食味が向上することを旨とし、平成20年から豊後高田市の交雑牛肥育農家での給与試験を契機に始まった。地元産の飼料である飼料用米を活用できれば、新たな消費拡大や飼料費の低減など、畜産農家への経営安定効果が大きいと考えられる。飼料用米の肥育牛への給与から牛肉の販売に至るまでの一連の取組みについて報告する。

### 2 内容

#### (1) 肥育牛への飼料用米給与

飼料用米は県内の飼料加工業者で蒸気圧ぺん加工処理を施したもので、濃厚飼料の2割を置き換えて給与を実施。飼料用米給与による出荷成績への影響調査を実施したところ、通常出荷と遜色はなかったが、平成24年当初に、肉色やキメシマリによる格落ちが発生。要因調査のため、飼養管理の見直しや、他県の事例調査等を行い、改善を図った。

#### (2) 供給体制の整備

給与期間、給与頭数の拡大に伴い畜産農家戸別では確保や保管が困難になることから、関係機関と連携をとり、豊後高田市内での飼料用米の通年利用が可能になるよう、円滑な供給体制の整備に取り組んだ。

#### (3) 飼料用米給与牛肉の販売

利用農家と食肉流通業者を中心に「飼料用米給与牛」販売検討会を設立し飼料用米給与牛のブランド化に取り組んだ。「消費者が安心を感じるテーブルミート」という商品コンセプトが消費者に伝わるような販売戦略の決定のために、店頭における消費者意向調査を実施。平成24年9月の試験販売では、牛肉購買者層の調査や効果的なPR資材の作成のためにロゴシールなどの印象について調査した。

### 3 結果

平成22～23年に交雑牛130頭に給与した試験では、慣行区と遜色なかった。関係機関との連携により、飼料用米の通年利用と差別化販売の見透しがついたことから、平成24年からは利用農家が3戸800頭に拡大し、ブランド化に向けたロットの確保ができた。肉質については、現在農家の体重測定による牛群構成の改善に取り組み、今後は、飼料用米を組み込んだ飼料設計方法の確立を計画している。

消費者アンケートの結果では、飼料用米給与牛肉の差別化は可能であるが、コンセプトを消費者に理解してもらうには、まだまだPR方法の改善が必要であることが判明し、今後も試験販売を実施して、販売戦略の検討を行なっていく。